

2019年度  
Summer



# Support Our Kids オーストラリアホームステイ 報告書



2019年10月吉日

Support Our Kids実行委員会

## プログラム概要

## 事前研修・リユニオン

2019年5月19日(日)	第1回事前研修(東北福祉大学/仙台)
2019年6月23日(日)	第2回事前研修(東北福祉大学/仙台)
2019年9月8日(日)	リユニオン事前研修(東北福祉大学/仙台)
2019年11月16日(土)	リユニオン前日研修
2019年11月17日(日)	リユニオン本番



## オーストラリアホームステイ 2019年8月13日(火)～8月25日(日)

**滞在先** ノックスフィールド(ビクトリア州メルボルン郊外)

**ホスト校** フェアヒルズハイスクール(Fairhills High School)

**参加者** 宮城・福島の中高生6名(中2～高2)

**チーム名** Brave

ホームステイ中は勇敢に立ち向かう、挑戦するという気持ちをもって何事にも取り組む  
ロゴは地球をイメージした球体に飛行機を重ね、自分の想いや経験を伝えるという意味を込めた

## チーム目標

- ①自分から話しかける
- ②STEP (Smile, Thank, Eye Contact, Please) を達成する
- ③震災・自分の「想い」を伝える

## 実施プログラム

ホームステイ、ホスト校通学、311震災プレゼンテーション、日本茶の振る舞い、英語レッスン、マツダオーストラリア本社訪問、リーダーシッププログラム、MAZDA社の皆様との交流、水族館訪問、オーストラリアンフットボール観戦(Porth Melbourne vs Port Adelaide) 市内研修フィールドトリップ(メルボルンパーク、クイーンヴィクトリア・マーケットなど)

## プログラム協賛・協力

在日オーストラリア大使館、豪日交流基金、ビクトリア州政府、南三陸町、三菱食品株式会社、株式会社マルト、株式会社ウジエスーパー、マツダ株式会社、株式会社伊藤園、ANZCCJ、Fairhills High School



## ホスト校

Fairhills High School  
(フェアヒルズハイスクール)

## 舞台芸術が盛んで、豊かな自然に囲まれた中高一貫校

**タイプ** 公立共学 **学生数** 約870人 **創立** 1973年  
**受入学年** Year 7～12 **住所** ノックス

フェアヒルズハイスクールはビクトリア州ノックス市にある公立中高一貫校。メルボルンの中心から約5km東に離れた多文化都市ノックス市に位置する。

地理、歴史、科学、会計学、経営学、法学、IoTなどの主要科目のほかに、体育、音楽、演劇、ダンス、ビジュアルコミュニケーション、スタジオ芸術などの選択科目も充実。VICE (Victorian Certificate of Education: 世界に通用する高等教育修了資格) プログラムが含まれており、質の高い教育が特徴。外国語はドイツ語または日本語が選択できる。

フェアヒルズハイスクールは、ノックス市内の公立高校の特別芸術強化校に指定されており、過去10年以上にわたり、「ロック・エステッドフード」という全国ダンスコンクールで上位入賞するなど芸術活動が盛ん。



日程	AM			Lunch	PM	宿泊先
	Period 1	Period 2	Period 3			
Day 1 8/13 火	東北⇒東京			13:30-16:30 出発式@ Support Our Kids事務局		国立オリンピック 記念青少年 総合センター (代々木)
Day 2 8/14 水	グループワーク			13:30-15:00 壮行会@ オーストラリア大使館		Hyatt Place Tokyo Bay
Day 3 8/15 木	10:00 出国	フライト (QF080) ※14時間遅延 (予定は14日20:05出国)			ホストファミリー 対面	メルボルン ホームステイ
Day 4 8/16 金	校内見学	通常授業	マツダオーストラリア 本社訪問			メルボルン ホームステイ
Day 5 8/17 土	ホストファミリーと過ごす		メルボルン市内研修① presented by Mazda 水族館訪問 オーストラリアンフットボール観戦 Porth Melbourne vs Port Adelaide			メルボルン ホームステイ
Day 6 8/18 日	ホストファミリーと過ごす					メルボルン ホームステイ
Day 7 8/19 月	English	English	通常授業	リーダーシップ プログラム	日本茶の ふるまい	メルボルン ホームステイ
Day 8 8/20 火	通常授業	通常授業	English	ランチ	English	メルボルン ホームステイ
Day 9 8/21 水	震災プレゼン	English	English	ランチ	通常授業	メルボルン ホームステイ
Day 10 8/22 木	English	English	通常授業	送別会	通常授業	メルボルン ホームステイ
Day 11 8/23 金	メルボルン市内研修② Melbourne Park Tour & Queen Victoria Market					メルボルン ホームステイ
Day 12 8/24 土	5:00 ホスト校出発 9:10 メルボルン空港 QF 079便 出国				18:35 成田空港 到着	ホテル ルポール麹町
Day 13 8/25 日	10:30 解散式@Support Our Kids事務局			帰宅		

ホームステイ



ホスト校通学



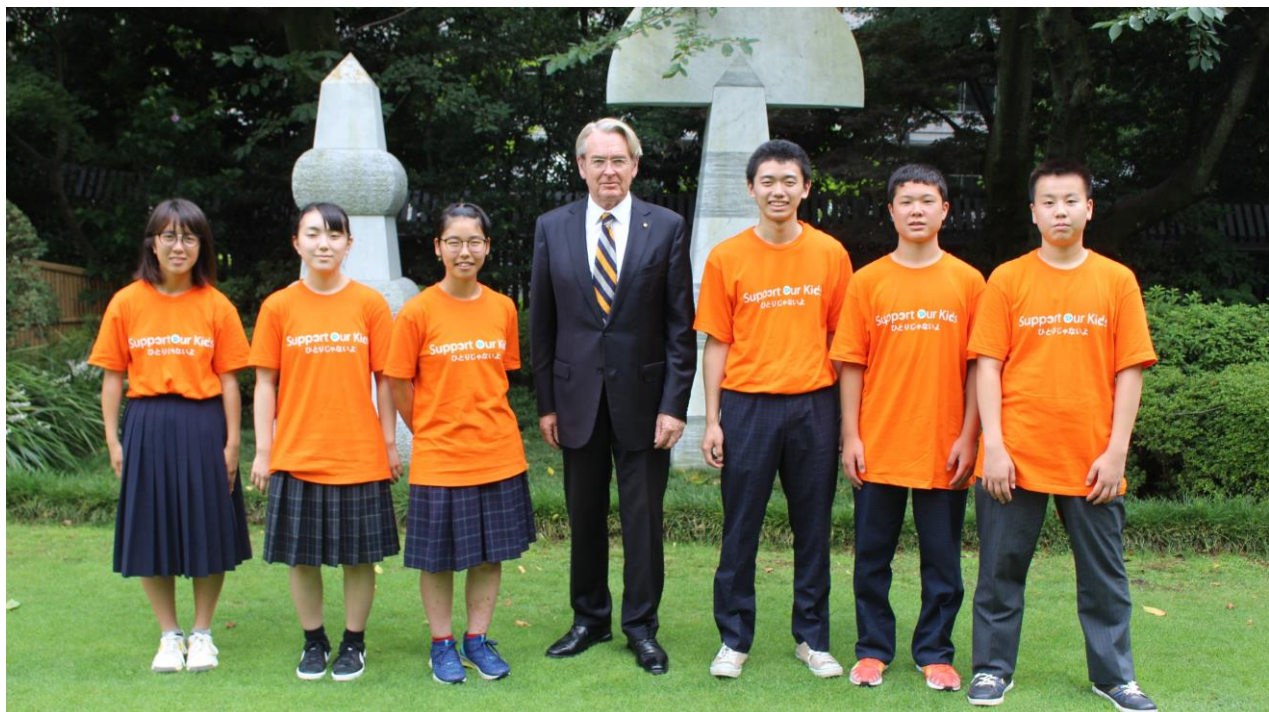
震災プレゼン



マツダ社訪問







## 出発式

13日にSupport Our Kids事務局オフィスで出発式を執り行いました。ゲストには支援者である上村様（マツダ株式会社）と鳥村様（2012年USホームステイ引率）にお越し頂き、支援者の想いやホームステイの心構えについてお話し頂きました。

### 【内容】

震災プレゼンテーション、ホームステイの心構えについて、ゲストプレゼンテーション（マツダ株式会社）オーストラリアについて（生徒プレゼンテーション）



## 壮行会

在日オーストラリア大使館で壮行会を開いて頂きました。壮行会にはリチャード・コート大使、マイケル・ホイ参事官他多くの大使館スタッフ、株式会社伊藤園より白石様、武田様にご参加いただきました。

### 【内容】

震災プレゼンテーション、日本茶の振る舞い、決意表明、オーストラリアについて(在日オーストラリア大使館)



## 支援してくださる方々の熱い想いを感した

震災プレゼンの準備をしっかり出来ていたと思っていたが、実際、最初から最後まで通してみると詰めがはきりと分かった。誰に何のためにプレゼンをするのかについてもう一度確認し、本番のプレゼンを迎えたい。また、マツダさんの歴史について学んだ。広島に原爆が投下され、震災時の私達のように逆境を乗り越えてきたことを知ると共に、改めて支援してくださる方々の熱い想いを感した。今回のホームステイを自分で実りあるものにしなければいけないと身が引き締まった。



## チーム目標のSTEP

大使館ではマイケル・ホイさんの笑顔に安心してリラックスして壮行会にのぞめました。自分達のプレゼンは研修の時よりもアイコンタクトなどを意識して行えました。チーム目標のSTEPを達成するのに一歩近づいたように思えました。





*With Buddies !!*

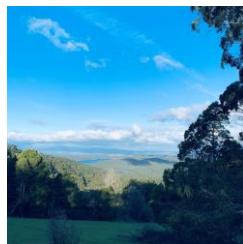


お世話になったホストファミリーの皆さん。バディはホストシスターやホストブラザーが担当。家族の一員として温かく迎え入れて頂きました。滞在はたったの10日間と短い期間でしたが、オーストラリアが第二の故郷と思えるほど、かけがえのない時間を過ごしました。



### たくさんの人に支えられた ホームステイ

ホストファミリーは朝早くから笑顔で名前を呼んでくれたり、「Good morning!」と声をかけてくれたり最後まで優しく温かかったです。たくさんの人に見送られ、嬉しい半分寂しかったです。たくさんの人に支えられたホームステイだと感じました。



### 感謝の気持ちを持ちながら過ごせた

家に帰った後、「山頂に行こう!」と言われ、着いたら、「この景色を見せたかったの」と言われ、見たらとても美しい景色が広がっていました。その時、僕はとつもない感謝の気持ちが生れました。僕にこんなに手間暇かけて、エスコートしてくれるのが本当に嬉しく、感謝しています。感謝の気持ちを持ちながら過ごすことが出来て、昨日立てた目標をクリア出来て嬉しいです。





## English Class

ホスト校で英語の授業。英語が母国語ではない人へ、通常授業とは別に英語のクラスを組んで頂きました。

簡単な挨拶を学んだ後は、オーストラリアの歴史、国旗の意味やシンボルカラーなどを英語で学び、オーストラリアへの理解も深めるとともに英語力を磨きました。

### オーストラリアの紋章

それぞれの絵柄の意味を学びながら色塗りをしました

→



### 自然と生活している

英語の授業でやったアボリジナルアートは自然のものがたくさん形で表されていて面白く、自然と生活しているんだなと感じました。実際絵を描いている所を見てみたいと思いました。



### 楽しくて興味が更にわきました

オーストラリアについてたくさんのことを英語で教えてください、違うところや分からないところは、私たちに合わせてくれて、とても楽しくて興味が更にわきました。特に「meet」と「meat」の違いは、『お肉の方は食べるから後ろにeatがついている』と教えてくれて、脳裏にガッツリ残りました。テストでもいきたいと思います。





## 震災プレゼンテーション

@ Year 9 class



## 震災プレゼンテーション

YEAR 9 (中学3年生) の地質学のクラスで震災プレゼンテーションを実施。どの生徒も真剣に耳を傾けてくれました。



## リーダーシッププログラム

ホスト校のリーダーシッププログラムに所属する生徒たちによるアクティビティを実施。英語に親しみながら交流を深めることが出来ました。



## 日本茶のふるまい

日本語クラスで実施。日本文化に興味がある生徒が対象だったため、とても喜ばれました。



## お茶を通して会話できる

伊藤園さんが教えてくださった作法などしっかり確認して取り組むことができました。生徒がお茶がとても美味しいと言ってくれてとても嬉しかったです！お茶を通して自然と会話もできるという素晴らしい日本の文化のいいところだなと思いました。



## 自分たちの最大の目的は 何なのか考えることができた

私達のプレゼンの集大成を同年代のオーストラリアの子達に聞いてもらうことが出来て本当に良かったです。最初は反省点ばかりでしたが、改めて自分たちの最大の目的は何なのか考えることができ、その後、みんなで夜遅くまで話し合ったり、一人一人がホームステイが始まってからもたくさん練習を重ね、昨日も電話で何時間も練習して、相手に伝わる本当のプレゼンが完成しました。





### マツダ・オーストラリア 本社訪問

日本の地名にちなみ名づけられた会議室や各部署、撮影スタジオ、ショールームなど最先端のオフィスを見学。震災プレゼンも実施。

ショールームには歴代モデルが展示されていました。



### メルボルン市内研修

マツダ・オーストラリア社のレベッカさん、レイさんの案内で水族館、オーストラリアンフットボール観戦へ。オーgerらしい休日を体験しました。



### コミュニケーションの大切さ

今日は学校とマツダ・オーストラリア本社に行きました。どちらに行ってもフレンドリーに話しかけてくれて、とても話やすく、自分からも挨拶をしたり、話しかけたりすることが出来た。一日を振り返ると、とても充実していたように感じる。私が復興アンバサダーとして復興について伝える前に、現地の人と、コミュニケーションをとる事が大切であると感じた。



### 会場と一丸になって観戦できる

オーストラリアンフットボールはとても面白いスポーツで、ルールブックは事前に読んでいたものの、いざ観戦となると、「ん？」と分からなくなってしまいました。それは前半のみ。「マーク」※というルールを覚えれば会場が盛り上がるタイミングもわかるし、わかることによって会場と一丸になって観戦できるのでとても面白かったです。



※マーク=キックされたボールをノーバウンドでキャッチすること、マークが成立すると、その時点でフリーキック、または攻撃続行を選択できる。





### Melbourne Park Tour

全豪オープン（テニスの4大国際大会の1つ）の開催地であるメルボルンパークを見学。大坂なおみ選手など世界トップクラスの選手達が使用したロッカールームや食堂、裏導線などの舞台裏を見学。またマーガレットコートアリーナ前の青いテニスコートでテニス体験も！



### Queen Victoria Market

南半球最大の屋外市場「クイーンビクトリアマーケット」へ。コーヒーの街として有名なメルボルンで、オーストラリア発祥と言われるフラットホワイトにも挑戦。



### 毎日が挑戦に溢れてました

メルボルンアリーナツアーに参加しました。私たちの為だけにたくさん場所を紹介してくれて、普段は入れないところまで見れて良かったです。まさか、テニスに挑戦出来るとは思いませんでした。初めてのテニス本物のすごいコートで出来てすごい経験させてもらってるなと思いました。オーストラリアは最初から最後まで驚くことがいっぱい、毎日楽しかったし、毎日が挑戦に溢れてました！すごい経験といい出会いがありました。



### ☘ コーヒーの文化

最初に全豪オープンなどが行われてるテニスの聖地に行きました。雰囲気は凄く思わず圧倒されてしまいました。その後Queen Victoria Marketに行きました。昼食後にオーストラリア発祥ともいわれているフラットホワイト（珈琲）を飲みました。イタリア人が来た時にコーヒーの文化が広まったそうです。





## 解散式

Support Our Kids事務局のオフィスにて解散式を執り行いました。ゲストには支援者の石山様（株式会社マルチグループホールディングス）、鳥村様、平野様（Support Our Kids企画委員）にお越し頂きました。振り返り映像とともに、現地でどんな体験をしたか、自分の言葉で語り、支援者へ感謝の想いを伝えました。



### 復興アンバサダーとして羽を広げていきたい

時に仲間に助けられ、時に仲間を支える。これが「Support Our Kids ~ひとりじゃないよ~」なのかなとテーマを実感しました。この研修で自分を成長させることを目標にして過ごしてきました。**自分の成長はこれからの過ごし方で実感できるものだと思います。**新たな日本での1歩をどうするか、どう変えられるのが成長だと思うので、オーストラリアで学んだことを十分発揮できるよう復興アンバサダーとして羽を広げていきたいです。

### これからは人のために

解散式でオーストラリア研修の様子をビデオで見ている時や、オーストラリア研修の感想を發表している時に、今まで関わって頂いたたくさんの方への感謝の気持ちとチームのメンバーともお別れする悲しさが込み上げて涙が溢れました。これからは人のために全力で行動し、恩返しをしたいです。

### 特別協賛・協力

在日オーストラリア大使館、豪日交流基金、ビクトリア州政府、マツダ株式会社、株式会社伊藤園、三菱食品株式会社、株式会社マルト、株式会社ウジエスーパー

※その他、多くの方々にご協力いただいております。



## 自分を変えるきっかけになり、新しい目標を見つけることが出来た

私がこのプログラムを知って興味を持ったのは、今の自分を変えることができるきっかけになると思ったからです。

私はこのプロジェクトを通して、何事にも挑戦することの大切さと、人の優しさ、世界の広さに気づくことが出来ました。

翻訳アプリがないと絶対できないと思っていた会話も、最初は全く理解できずにいましたが、後半はなんとなく分かるようになり、自分が無理だと思っていた事でも、やれば出来ることに気づけてすごく嬉しかったです。日本とは違う生活の中で困ったとき、話しかけて助けてくれたり、日本では普通出逢わないところで出逢った人と写真を撮るくらい仲良くなったり、驚くことが多くありました。そんな毎日を過ごす中で、自分が知っていた世界は、すごく狭いものだったと感じました。

震災プレゼンテーションをしたとき、たくさんの方が熱心に話を聞いて質問してくれて、震災の事に関心を持って話を聞いてくれる人が海外にもこんなにいたんだと、震災の大きさを改めて知ると同時にすごく嬉しかったです。

私は将来英語が話せる看護師になりたいと思うようになりました。オーストラリアに滞在中、日本語が聞けるだけですごく安心できたので、外国の人が日本で病院を利用することがあったとき、言葉が通じるだけで、不安を和らげてあげられると思いました。

このプロジェクトに参加させてもらったことで、自分だけでは出来ないたくさんの方を経験し、よい友人にも出会う、私自身を変えるきっかけを作り、新しい目標を見つけることが出来ました。支援者の皆さま、ご支援本当にありがとうございました。



## 自分の気持ちをはっきりと伝えることの大切さ

私は東日本大震災が発生してからテレビやニュースで地元のために活動する方々をたくさん見てきました。その影響もあり、地元貢献はもちろん、世界を飛び回り、建物だけでなく心の傷まで回復させられるような看護婦になりたいと思うようになりました。

このホームステイプログラムの中でとても印象に残ったことが2つあります。

1つ目は現地の人の温かさです。2つ目は**自分の気持ちをはっきりと伝えることの大切さ**です。日本では「暗黙の了解」という言葉があるくらい、なかなかはっきりと意見を述べることも多くはないと思います。しかし、ただでさえ話が**完璧に伝わるとは限らないオーストラリアで意見を述べることは大切であると感じました**。言葉の壁もあり、聞き取ることが難しかった時もありましたが、何とか自分の意見を述べると、ホストファミリーが嬉しそうにしてくれたのが印象的でした。

今回、ホームステイを経験して、現地の人にしてもらったように、人のために何事にも全力で取り組める人になりたいと強く思いました。また、地元のスーパーであるマルトさんが、一番身近な支援者としてホームステイプログラムに参加した子ども達に手厚い支援をしてくださっているように、**将来、まずは地元のために出来ることを精一杯頑張りたいです**。そしてゆくゆくは看護師として世界と飛び回り、**必ずオーストラリアに帰ってきたいです**。



## 支えてもらってばかりの八年。今度は私が支える側に。

東日本大震災が発生してから早八年。私は八年たった今、震災の記憶が風化してると感じるが増えました。そのため、忘れてはいけない被害を思い出しってもらうこと、防災に対する意識を高めってもらうこと、震災後から悔いなく生きたいと思い、町から募集されてくるプロジェクトにはほとんど参加してきましたが、姉が参加したSupport Our Kidsプロジェクトにも参加したいと思ったのが志望動機になります。

オーストラリアでは、本当に心温かい人にたくさん出会いました。初めて出会ったホストファミリーは笑顔で迎えてくれて、いろんな話をたくさんすることが出来ました。私の震災の被害についてもたくさん聞いてくれました。そしてとても心配してくれました。そのとき、**私は相手にとって話づらいことも少しずつでも聞いてもらうことによって心が軽くなるから、「辛そうだからそっとしておこうと思うより、少しでも話を聞いて寄り添う方が誰かを救ってあげられると考えられるようになりました**。

ホームステイを通して、自分でも以前より積極的になれたと思います。復興アンバサダーとして、リユニオンはもちろん、地域行事にも参加して地域の活性化につとめたいです。**支えてもらってばかりの八年でしたが、今度は私が支える側になってたくさんの人を笑顔にし、少しでも復興に努めます**。





